

平成30年度第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子高等学校

校長 笹川 康詩

評 価 日	平成31年1月19日(土)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1 今年度の自己評価について (1)重点目標の達成状況 ① 確かな学力の育成 ・上級資格取得は今後も継続して欲しい。 ② 豊かな人間性の育成 [問題行動ゼロについて] ・問題行動ゼロは達成できていないかもしれないが、遅刻数も順調に減っており評価できる。C評価は厳しすぎると感じる。 ③ 自己実現のための進路指導の充実 [産業社会と人間・プレテーマ学習・テーマ学習] (学習成果発表会を参観して) ・年々レベルアップしていると感じた。 ・人前で発表することはもちろんだが、自分のキャリアについて考える機会があることは素晴らしい。 ・米×米プロジェクトは、高校生らしい視点からの発表内容で良い。 ・1年次生の「将来、人の役に立つ仕事がしたい」という発表が印象的で嬉しかった。 ・2年次生の発表で、「待機児童」と「潜在保育士」の関連に着目していたのは驚いた。 [進路希望の実現について] ・数字的に昨年度を越えることができなかったかもしれないが、十分な結果が出ていると評価できる。 ・入学時に各自の目標を設定させ、その達成率を表すとよい。 (2)説明・公表について [保護者アンケートについて] ・評価されており、教育目標の実践が行われていると感じた。		・合格率の低い科目についてはその理由を解明し、今後の対策としたい。 ・引き続き、問題行動ゼロを目指していきたい。
2 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・予算執行も着実に実行されており、未執行の事業についても詳細に予定されており問題ない。		・今年度は初の試みとして、県内外から総合学科の教員・生徒を招待し、相互のレベルアップを図った。 ・今後、総合学科間の連携を更に推進していく。
3 取組改善のための提言 [平成31年度県立学校裁量予算について] ・継続、新規として変化のある多くの特色のある取り組みがあり、大変楽しみである。		・部活動での休日登校時の制服着用の緩和など、要望へ年度内に早急に対応した。 ・未執行の事業についても、来年度に活かせるよう実施する。
		・新たに特別支援学校との交流を行うなど、今後も学校の発展をイメージし、取り組んでいく。